

水資源・環境学会 2025 年度研究大会
報告要旨

【自由論題】

②水環境政策の展開における運営組織の機能—宮城県広瀬川の事例をめぐって—

報告者：秋山道雄（滋賀県立大学・名誉教授）

仙台市の六郷堀・七郷堀は、環境用水制度化の端緒となった事例として知られている。水利権取得に至る過程で、関係者によって仙台地域水循環協議会が結成され、ここが取水量を決定するための試験通水を実施したり、合意形成を図るための協議を行ってきた。環境用水制度化の背景や経緯については、複数の異なった専門分野の研究者が取り組み、六郷堀・七郷堀の事例がもつ意義が多面的に検討されてきたが、既往の研究では仙台地域水循環協議会の果たした役割は水利権取得に関わる事象に限定されていた。一方、広瀬川流域圏では、六郷堀・七郷堀の受益地域における非灌漑期の水質汚濁・景観劣化とは異なったもう 1 つの環境をめぐる問題（広瀬川本川で渇水期に瀬切れが発生）が存在し、協議会はこれへの対応という課題にも直面していた。六郷堀・七郷堀の受益地域における水環境問題と並行して進んでいた課題への対応は、今後の水環境政策に貴重な示唆をあたえるものであった。